

研究・調査報告書

報告書番号	担当
92	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
題名 (原題/訳)	
Moderate alcohol use and cognitive function in the Guangzhou Biobank Cohort study. 適量飲酒と認知機能: 広州バイオバンクコホート研究	
執筆者	
Au Yeung SL, Jiang C, Zhang W, Lam TH, Cheng KK, Leung GM, Schooling CM.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Ann Epidemiol. 2010 Dec;20(12):873-82.	
キーワード	
飲酒、中国人、認知機能	
要 旨	
目的: 欧米の観察研究において、適量飲酒と良好な認知機能との関連が示されている。しかしながらそれらの研究にはバイアスの影響があり、根拠として確固たるものではない。非西洋におけるエビデンスは、因果関係検証のために有用と考えられる。そこで、飲酒率が低い中国南部において、この関連を検討した。	
方法: 広州バイオバンクプロジェクトコホート研究における断面データ (N= 28537) を用いて、多変量線形回帰分析により、男女それぞれにおいて、飲酒 (なし、機会飲酒、中度飲酒、高度飲酒、過去飲酒) と 3 段階の delayed 10-word recall score (N = 28,537) および Mini-Mental State Examination (MMSE) スコア (N=9571) との関連を検討した。	
結果: 社会人口学的要因補正後、男性・適量飲酒者の Delayed 10-word recall scores (0.30 word, 95%信頼区間[CI]0.18~0.42) は非飲酒者と比べ有意に高値であったが、女性において有意な差は認められなかった (0.02; 95%CI -0.12~0.17)。機会飲酒者の Delayed 10-word recall scores は男女ともに有意に高値であった: 男性(0.27; 95% CI: 0.18 to 0.37), 女性 (0.30, 95%CI : 0.23 から 0.37)。これらの推定値は心血管危険因子の調整後もほぼ同様であった。MMSE スコアに関する結果も Delayed 10-word recall scores の結果と同様であった。	
結論: 適量飲酒は必ずしも認知機能とは関連していなかった。飲酒習慣に関連する生活習慣全般による交絡の影響が存在する可能性がある。	